

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872100284		
法人名	有限会社カサブランカ		
事業所名	有限会社カサブランカ		
所在地	茨城県ひたちなか市		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=0872100284-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的でアットホームな施設です。また、家族様にも寄り添いながらの生活に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は利用者が1ユニット定員9名小規模であるが、常勤の看護師や厨房専門の職員を配置し、温かくきめ細やかな支援を行っている。母体の医療機関との連携が密に行われ、感染症対策にも力を入れ、利用者と家族等の安心につながっているほか、普段より個別に利用者へ食べたいものを確認する「リクエスト食」を取り入れている。材料さえあればすぐにメニューを決めて提供し喜ばれている。利用者や職員は、リビングの大きなテーブルで活動や談笑して過ごし、一般の家庭のような温かい雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関にていじしている。その人らしい暮らしができるよう、取り組んでいる。	施設入口に理念と方針を掲示するとともにカンファレンス時に職員間で確認している。公園の清掃活動や地域の祭りに参加するなど地域とのかかわりを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、地域の方々との交流や触れ合いが出来なかったが、今後は地域の一員として関わりを持てるよう努力している。	散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜のおすそ分けをもらったりしている。職員と利用者が公園のごみ拾いなどの奉仕作業に参加することがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りや奉仕活動等に、できる限り参加させていただき、認知症の理解・支援等の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、施設運営等の取り組み状況を常に報告している。	運営会議開催を第3金曜日とし開催予定日を運営会議資料に記載している。議事録は当日参加できなかった委員へも配布している。地域の認知症高齢者についての相談にのっている。	運営推進会議の資料、議事録とも良くまとめられてますが、雑談ベースでのご意見も記載できる様、'その他'の項目を追加される事を希望します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点など地域包括等に相談し、協力を得ながら取り組んでいる。	市の担当課とは顔の見える関係を築いている。生活保護受給の利用者を受け入れており、市の担当者とは日頃より相談を密にして、情報共有を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束について研修を行い取り組んでいる。	身体拘束排除のための委員会を運営推進会議時に同時開催して状況報告を行っている。2か月に一度、全職員で身体拘束チェックシートなど活用した勉強会を行っている。その内容を拘束廃止委員会で検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があるかぞくや関係者に話を通し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定に際しては面談の上ご利用者、ご家族の権利や義務を分かりやすく説明し質問に応じ十分に理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求時等に出来事等を記載したり、その都度電話で生活の様子をお知らせしている。	施設玄関に苦情受付箱を設置している。コロナ禍前は面会時に意見や要望を聞いていた。苦情等対応のための事業所としての手順がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾けながら、それらを運営に反映させている。風通しの良い関係づくりに努めている。	日ごろから話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員会議時にも話を聞いている。年間レクリエーション計画は、職員が作成している。職員間の連絡帳を設置し、情報共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成等、カレンダーに職員が自由に休みを書き入れ、職員が向上心を持って、働きやすいよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会を職員へ知らせ、受講を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会等の活動を通して、同業者との交流の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の段階から気持ちや思いを聞き、安心した入所生活を送ってもらえるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に寄り添いながら、関係づくりに日々努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の気持ちや思いを聞き、アットホームな施設での支援が適応するのか良く話を聞き、見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設が家庭的・家族的な雰囲気であり、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調面等、気になる時は電話で家族に報告し、理解を得たり、考えを聞いたりしながら、本人の支援を得られるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や家族等、生活の状況を知ってもらえるよう、連絡を取り合っている。	入居前にアセスメントシートを作成してこれまでの馴染みの関係も把握するようにしている。職員と一緒に墓参りや自宅周辺のドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活場所では、自由に行き来できるので廊下食堂等で、いつでも会話し合え孤立なく過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族も高齢化している方が多い為、さまざまな形でご家族様に対しても支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活に関わり、発せられた言葉・会話から思いをくみ取るようにしている。食事の好みも把握し、食べられる物に変えて提供する等、楽しく美味しく食べられるよう工夫している。	利用者の好むことややりたいことを確認している。普段より個別に食べたいものを確認する「リクエスト食」を取り入れている。表出の難しい利用者も、表情や態度を観察して本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活や好みを把握すると共に、家族の思いを聞き、本人らしく生活してもらえよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活内容、その様子や過ごし方を記録し、申し送りすることで変化や発見等を職員間で情報を共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活がより良く暮らして頂けるよう、本人や家族からの情報を把握しプラン作成にあたっている。	家族等や本人の意見をもとに医療関係者の意見も聞きながら、毎月モニタリングを行って、ケース会議を開いて話し合い介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員は、入居者へのケア時に気付くことを、個人ファイルに記録し、情報共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に、その時々生まれるニーズに個別に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しながら、安全に楽しみながら生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、医師へ本人の日頃の情報を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。常勤看護師がいて医療連携を図っている。受診は状況に応じて付き添い、医師へは口頭で状態を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職と訪問看護師との情報の共有や相談等を常に行い、利用者が適切な看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりを大切に行っている。入院時は病院関係者との情報交換や相談等は常に行い、今までも、入院時は病院・病室には家族に代わって毎日、顔を出すようにしてきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関する同意書があり、状況の変化に応じた話し合いと、段階的な合意を行い、施設が出来ることを説明している。	家族等には、利用開始時に概略説明を行い、重度化が進行した時、対応説明、相談を行っている。職員は年1回研修を受けている。看取り後は職員のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身につけられるよう、必要に応じて勉強会等を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・防災訓練を実施している。訓練後は、課題点について検討し、改善に取り組んでいる。	火災訓練を行っているが夜間を想定した訓練を行うまでに至っていない。訓練後の反省会は次回に向けたものとはなっていない。非常食として3日分の食料を確保している。	訓練の反省を次回に活かす取り組みと、夜間想定訓練を確実に実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重出来るよう、個別に良く話を聞き、本人の思いをくみ取りながら、生活の支援を行っている。	人権尊重や守秘義務について日ごろから話し合いを行っており、利用者に対する言葉かけについては職員同士で注意しあっている。個人情報や肖像権に関する同意書がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定を出来るよう、全職員がケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での基本的な生活を軸とし、その時々々の体調や思いを尊重して生活している。入居者の思いを優先するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者のそれぞれのこだわりを大切に、身だしなみやおしゃれが出来るようにケアを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食べ終わった食器をまとめたり、洗ったり、拭いたり片付けをおこなっている。(無理がないようやりたい方、出来る方)	日頃から食べたいものを個別に確認して「リクエスト食」を取り入れている。利用者はそれぞれできることを職員と一緒にしている。誕生日にはホールのケーキを注文して皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体重を毎月記録、観察している。水分補給も食事時やおやつ時の他、散歩や入浴後等に接種している。水分量・食事も記録し、常に体調を観ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。又、本人の力に応じた口腔ケアも実施している。在宅歯科が入っているので、口腔衛生や治療等、専門的な口腔ケアが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間の排泄状態について、排泄パターンを、全職員が理解・把握しており、自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けをしてトイレ誘導している。散歩や簡単な運動をして便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ簡単な体操や体を動かしたり、水分摂取や食物繊維が多く含まれている飲食物等、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の軸として順番はあるが、入りたくない時等は無理をさせない。又、夏場は汗もかき皮膚疾患にもなりやすいので、声掛けして入りたい方はシャワー浴を個々に支援している。	入浴は基本週2回としているが、利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。利用者に確認をしながら入浴剤を使用したり、季節に合わせたゆず湯などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて安心して、気持ちよく眠れるように全職員がケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を添付している。薬の使用に対して、目的や副作用等の理解、又、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願い出来るような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	車でドライブに出かけたり、散歩したり支援している。	近隣への散歩や買い物に職員と一緒にしている。ドライブで海を見に行っている。年間行事計画を立てて張り出している。利用者の希望で自宅の周りをドライブして喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側で行っている。買い物や家族来設時、孫等にお小遣いを渡したり、お祝いを渡したりが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を書ける方には、希望に添えるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花を飾ったり、その時々飾り等、工夫している。	手入れされた花壇の周りにベンチが配置され寛げるスペースになっている。居間兼食堂では大きなテーブルに集まって活動をしたり話をしている。クリスマスの飾りつけがされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の近くにソファを配置し、テレビを観たり、利用者同士で会話出来るよう、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活出来るよう、家族の写真や季節の花を飾ったり、入居時、愛着がある物や家具、お位牌等持ってこられる物等、少しでも居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居時に使い慣れたものを持ち込むよう説明をしており、利用者はそれぞれ使い慣れた寝具やテレビ、家族等の写真やぬいぐるみなどを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置等、安全には配慮している。必要であれば、名前を書いたり、安全かつ分かりやすいよう気風している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 有限会社カサブランカ

作成日 令和6年1月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議後の雑談の意見等も記載できるよう「その他」の項目を追加されることを期待する。	運営推進会議後の雑談の意見等も記載できるよう「その他」の項目を追加していきたい。	運営推進会議の資料、議事録に雑談ベースの意見等あった時、意見等も記載できるよう、「その他」の項目を追加作成していきたい。	3ヶ月
2	35	訓練の反省を次回に活かす取り組みと、夜間想定訓練の実施。	訓練の反省を次回に活かす取り組みの実施と、夜間想定訓練の実施をしていきたい。	訓練の反省を次回に活かす取り組みの実施と、夜間想定訓練の実施	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。